

令和4年度 西陵中学校についてのアンケート結果 分析と今後の方針

アンケート実施時期: 令和4年12月末

1 教育目標実現に向けた努力

コロナ禍で様々な活動が制限される中で、生徒評価が98%とコロナ禍以前の令和元年よりも10ポイント高い評価となりました。保護者からも9割以上から肯定的な評価を得、微増ながらも昨年度よりもよい結果となりました。今後も学校教育目標の具現化に向けた学校づくりビジョンの見直しを図るとともにや実現に向けた努力を引き続き行い、様々な機会を通して取組の成果を生徒・保護者・地域へと、わかりやすく伝えていくように努力します。

2 充実した学校生活

生徒・保護者共に95%以上から肯定的な評価を得ました。生徒は充実した学校生活を送っていると感じて、保護者には生徒の様子から見て評価いただけたと考察します。引き続き、いじめや暴力のない学校、安心安全な学校づくりを目指すとともに、生徒の心の変化に寄り添いながら日常的な取組に加え、全生徒の視点や立場に立った仲間づくりにしっかりと取り組み、一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう生徒に寄り添った教育活動を続けていきます。また、定期的な教育相談、スクールカウンセラーとの連携を適切かつ迅速に行い、課題の解決に取り組んでいこうと考えています。

3 わかる授業

98%の生徒が「授業が分かりやすい」「授業改善や工夫がなされている」と答えました。これは令和に入り最高値となります。コロナ禍も3年目となり感染症対策を意識した学習形態にも慣れると共に、タブレットを活用した個別最適な学習やICTを効果的に活用した協働的な学びを推進することで、コロナ禍前の令和元年度よりも6ポイント上回る結果となりました。また、昨年一昨年度に実施された休校もなく、感染期間にもオンラインでの授業参加機会を設けたことなどもこの評価につながっていると考察します。今後も全国学調やみえスタディチェックの結果分析に基づいた授業改善や自ら問いを持ち考える指導の創造を目指し、さらなる努力を続けたいと考えます。

4 適切な評価

昨年度より新学習指導要領が適用され、評価の観点および評価方法が変わりました。初年度の昨年は生徒97%・保護者85%から評価となり保護者評価が低い結果となりました。そこで、各教科のシラバスを生徒および保護者に示し、評価の観点および評価の方法を明確にすること。教師が評価の過程に具体的な説明責任を果たしていくこと。生徒が一層意欲的に取り組めるような授業の工夫と評価のあり方についてさらなる研修を深めたこと。などに取り組んだ結果がアンケート結果につながっていると考えます。これからは定期テストの点数だけではなく、毎時間の学習活動への参加状況や各単元における思考力や技能、表現力なども大切に評価に取り組んでいきます。

5 キャリア教育の推進

生徒の評価は例年高いですが、今年度は99%と非常に高い値となりました。保護者は昨年度74%と全ての項目の中で最低の値となりましたが、本年度は12ポイント上昇し、コロナ禍以前の水準まで戻ってきました。コロナ禍で中止していた様々な体験活動を徐々に再開すると共に、社会で活躍されている方々からお話を聞かせていただく機会も持ちました。また、ビジョンボード等を活用した自己を見つめる取り組みやPASカードを使った診断など個性の伸長を図る取組もおこなっています。今後も子どもたちが自分の将来について関心を持ち、生き方について考える機会を増やしていきたいと思います。

6 道徳・人権教育の充実

生徒の98%から肯定的な評価を得ており、年々向上しています。子どもたちにとって、身近でタイムリーな課題を話し合うことで、それらの問題を他人事ではなく自分事としてとらえられたと考えます。保護者からも昨年度を6ポイント上回る91%の評価となりました。今年度は学校ホームページや校長室だよりで、積極的に授業の様子や内容、ねらいなどを発信してきました。その中でも道徳や人権学習の様子も紹介する取組が保護者の評価にもつながっていると思われれます。今後も、道徳の時間はもとよりすべての領域、教育活動において人権教育の充実を図り、仲間づくりに重点を置いた指導を心がけ、生徒や保護者にそのことが実感できるよう、対応していきたいと考えます。

7 仲間づくり

一昨年度に比べ昨年度5ポイント下がった結果から「友達との関係がうまくいっていない」と感じている生徒が増えているという事実をしっかりと受け止め、すべての生徒に視点を当てた指導を心がけてきました。今年度は微増ながら96%の生徒が学級の仲間や友達との関係がうまくいっていると回答しています。また、保護者においては昨年度より高い評価となりました。今後も教育相談に力を入れるとともに、生徒と生徒、また、生徒と教師が円滑な人間関係を築けるように指導を改善しながら、集団づくりを行っていきます。またウイズコロナの時代に合った行事等での仲間づくりを工夫していきます。

8 危機管理体制

95%以上の生徒、保護者が安全に学校生活を送れていると感じています。休み時間の見守りや定期的な学校施設点検などの学校生活での安全はもちろん、登下校時の安全のため、教師による下校時の安全パトロールやPTAによる校外指導・挨拶運動を定期的実施しています。交通マナーが悪いとの指摘もありますが、交通安全推進校への指定もあり生徒会を中心に交通安全に関わる取組を強化しています。また、防災面においても様々な角度からの避難訓練の実施と、安心・安全な学校を目指し取組んでいます。今後も生徒の安全意識を高め、安全確保のための体制作りをめざしていきます。

9 生徒指導上の問題への対応

ここ数年の間、生徒の評価においては肯定的意見が95%以上でした。しかし、保護者の評価においては3年連続で83%という数値であったものが、本年度は6ポイント上昇しより肯定的な評価を得ました。これまで、問題の早期発見・早期解決をめざして共通認識を持って取り組むという原則のもと、職員全員が危機感を持って対応し解決を図ってきました。また0次対応として教師は毎日の日記や休憩時間等を活用した生徒との会話を通してコミュニケーションや情報収集を図ってきました。今後も生徒が安心して学校生活を送れるように努めるとともに、保護者との連携をとり、職員間の連絡を密にすることで組織的対応のできる体制づくりをめざします。

10 教育相談

令和に入り、年々生徒、保護者ともに肯定的評価が増えており、特に保護者は10ポイント以上の上昇がみられ、教育相談の充実がはかられたと考察できます。毎学期の定期的な教育相談や生徒との日常的な関係づくりの中で、相談活動は定着してきています。教育相談の意義について職員全員が共通認識の下でこれまで積極的に取り組んできた成果であるように考えられます。又、担当より定期的に保護者に向け広報活動もなされスクールカウンセラーとの相談件数も増加しつつあります。今後も担任と保護者とカウンセラーとの連携を一層強化することで相談活動の充実をめざしていきます。

11 部活動の充実

コロナ禍となり生徒の評価が下落を続けていましたが、今年度18ポイントの上昇がみられました。昨年度までは大会の中止など部活動を楽しみにしている運動部の生徒にとっては非常に苦しい日々が続きました。感染症対策を行いながら日常に戻していくウィズコロナの時代に入り、部活動も少しずつコロナ禍以前の状況に戻りつつあることが読み取れます。保護者の評価も昨年度は8割を切る結果となっていましたが、8割を上回る評価に戻りました。今年度は外部指導者を一部で取り入れるなど新しい形を模索しながら、部活動指導が持つ教育的意義や役割の重要性について認識し指導に当たりました。来年度以降、国県市が進める部活動地域移行の動きを見据えながら、よりよい体制づくりを模索していきたいと考えます。

12 保護者・地域との連携

9割以上の保護者が肯定的な評価となっており、学校公開日や懇談会などの機会を肯定的に活用いただいていると考えています。また99%の生徒が、地域の人や外部講師による学習活動が役に立つと感じています。コロナ禍の為、一定の制限は設けましたが、外部の方を迎えての講演や授業、学校外へ出での活動を行ったり、保護者や地域の方に授業や行事を公開して、学校と保護者が生徒について話し合う機会を設けたりしていることが評価されていると思います。令和3年から始まった四日市市版コミュニティスクールを進め、地域との連携をさらに図っていききたいと考えています。

13 情報の発信・受信

99%の生徒が通信やホームページを通じて学校の様子をわかりやすく伝えていると評価しました。本年度はホームページを毎日更新し授業の内容や様子、学習のポイントなどを発信していることが評価されたと考えます。また、昨年度に引続き学校からのたよりを地域で閲覧いただき、学校を知っていただく手段としています。しかし保護者の評価で唯一下がった項目ともなりました。昨年度は一般公開できなかった文化祭・中体連大会といった行事を代替手段として動画での配信を行いました。今年度は文化祭等も保護者が体育館にて鑑賞できるような取組とし、配信を取りやめたことも今回の評価につながっていると考察します。今後も、情報内容の充実とタイムリーな発行・発信、また生徒への学年通信等による働きかけを行い、学校と家庭・地域がつながる取組を行っていきます。

14 学校指定物品

本年度より学校指定物品についての項を増やした。令和5年度からジャージ上下、ヘルメットの価格を引き下げ保護者負担を減らす努力をおこなってきました。しかし、肯定的回答が75%となった結果を真摯に受け止め、今後の取組や情報発信に活かしていきます。